

＜福島第一原子力発電所プラント状況等のお知らせ＞
(12月22日 午後3時30分現在)

平成23年12月22日
東京電力株式会社
福島第一原子力発電所

福島第一原子力発電所は全号機（1～6号機）停止しています。

1号機（停止中）

- ・ 3月12日午後3時36分頃、直下型の大きな揺れが発生し、1号機付近で大きな音があり白煙が発生しました。水素爆発を起こした可能性が考えられます。
- ・ 3月25日午後3時37分より原子炉への淡水の注入を開始し、現在は外部電源から受電した電動ポンプで淡水の注入を行っています。
- ・ 12月10日午前10時11分、給水系配管からの注水に加え、炉心スプレイ系注水配管から原子炉への注水を開始しました。
現在の注水量は給水系配管から約4.6m³/時、炉心スプレイ系注水配管から約2m³/時です。
- ・ 4月7日午前1時31分、原子炉格納容器内へ窒素ガスの注入を開始しました。
- ・ 8月10日午前11時22分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置によるプール水の循環冷却を開始しました。
- ・ 10月28日、放射性物質の飛散を抑制する原子炉建屋カバーの設置工事が完了しました。
- ・ 11月30日午後4時4分、原子炉圧力容器へ窒素封入操作を開始しました。
- ・ 12月19日午後6時、原子炉格納容器ガス管理システムの本格運用を開始しました。
- ・ 12月22日、原子炉格納容器への窒素の封入および格納容器ガス管理システムからのガス排気量について、これまでの運転実績を踏まえ、窒素封入量およびガス管理システムからの排気量の変更を実施しました。同日午前10時35分、原子炉格納容器への窒素封入量を約18Nm³/時から約13Nm³/時に調整しました。なお、同日午前11時45分、原子炉格納容器への窒素封入量の調整に伴いガス管理システムからの排気量が約30Nm³/時から約26.9Nm³/時に減少したことを確認しました。

2号機（停止中）

- ・ 3月15日午前6時頃に圧力抑制室付近で異音が発生、同室の圧力が低下しました。
- ・ 3月26日午前10時10分より原子炉への淡水の注入を開始し、現在は外部電源から受電した電動ポンプで淡水の注入を行っています。
- ・ 9月14日午後2時59分、給水系配管からの注水に加え、炉心スプレイ系注水配管から原子炉への注水を開始しました。
現在の注水量は給水系配管から約2.7m³/時、炉心スプレイ系注水配管から約6.1m³/時です。
- ・ 5月31日午後5時21分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置によるプール水の循環冷却を開始しました。
12月20日午後3時3分、使用済燃料プール代替冷却装置の流量計点検のため、当該装置を停止しました。停止は12月23日14時頃迄を予定しており、この間の使用済燃料プール水温度の上昇は約21℃程度の見込みです。（停止時使用済燃料プール水温：15.4℃）。
- ・ 6月28日午後8時6分、原子炉格納容器内へ窒素ガスの注入を開始しました。
- ・ 10月28日午後6時、原子炉格納容器ガス管理システムの本格運用を開始しました。
12月22日、原子炉格納容器ガス管理システムの気体のサンプリングを実施しました。分析の結果、原子炉格納容器ガス管理システム入口でXe-135が検出限界値(1.0×10⁻¹Bq/cm³)未満であり、再臨界判定基準である1Bq/cm³を下回っていることを確認しております。

- ・ 12月1日午前10時46分、原子炉圧力容器へ窒素封入操作を開始しました。

3号機（停止中）

- ・ 3月14日午前11時1分頃、1号機同様大きな音とともに白煙が発生したことから、水素爆発を起こした可能性が考えられます。
- ・ 3月25日午後6時2分より原子炉への淡水の注入を開始し、現在は外部電源から受電した電動ポンプで淡水の注入を行っています。
- ・ 9月1日午後2時58分、給水系配管からの注水に加え、炉心スプレイ系注水配管から原子炉への注水を開始しました。
現在の注水量は給水系配管から約2.9m³/時、炉心スプレイ系注水配管から約6m³/時です。
- ・ 6月30日午後7時47分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置によるプール水の循環冷却を開始しました。(12月22日午後1時30分から午後3時15分まで、ヒドラジン〔腐食防止剤〕を併せて注入)
- ・ 7月14日午後8時1分、原子炉格納容器内へ窒素ガスの注入を開始しました。
- ・ 11月30日午後4時26分、原子炉圧力容器へ窒素封入操作を開始しました。
- ・ 12月22日午前9時43分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置において、一次系循環ポンプの吸込圧力が低下傾向にあることから、一次系循環ポンプの入口側ストレナーのフラッシングを行うため、同ポンプを停止し、使用済燃料プールの冷却を停止しました。(停止時 プール水温度は約13℃)
その後、フラッシングを実施し、同ポンプの吸込圧力が回復したことから、同日午前11時6分、同ポンプを再起動し、使用済燃料プールの冷却を再開しました。(再開時 プール水温度：約13℃)

4号機（定期検査で停止中）

- ・ 3月15日午前6時頃、大きな音が発生し、原子炉建屋5階屋根付近に損傷を確認しました。
- ・ 7月31日午後0時44分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置によるプール水の循環冷却を開始しました。
- ・ 11月29日午前10時58分、4号機の使用済燃料プールにおいて塩分濃度を低減するためイオン交換装置の運転を開始しました。
- ・ 現時点において、原子炉格納容器内での冷却材漏えいはないものと考えています。

5号機（定期検査で停止中）

- ・ 安全上の問題がない原子炉水位を確保しています。
- ・ 3月19日午前5時、残留熱除去系ポンプを起動し、使用済燃料プールの冷却を開始しました。
- ・ 7月15日午後2時45分、本設の残留熱除去海水系(B系)ポンプによる残留熱除去系(B系)の運転を開始しました。
- ・ 補機冷却海水系ポンプ(B)の復旧作業が完了したため、12月22日午前10時11分、試運転を開始し、同日午前11時25分、異常がないことを確認したため、本格運用を開始しました。
- ・ 現時点において、原子炉格納容器内での冷却材漏えいはないものと考えています。

6号機（定期検査で停止中）

- ・ 安全上の問題がない原子炉水位を確保しています。
- ・ 3月19日午後10時14分、残留熱除去系ポンプを起動し、使用済燃料プールの冷却を開始しました。

- ・ 9月15日午後2時33分、原子炉は残留熱除去系、使用済燃料プールは補機冷却系および燃料プール冷却系、各々の系統による冷却を開始しました。
- ・ 現時点において、原子炉格納容器内での冷却材漏えいはないものと考えています。

その他

- ・ 6月13日午前10時頃、2、3号機スクリーンエリアに設置した循環型海水浄化装置の運転を開始しました。
- ・ 6月17日午後8時、水処理設備において滞留水の処理を開始しました。また、7月2日午後6時、水処理設備による処理水を、バッファタンクを經由して原子炉へ注水する循環注水冷却を開始しました。
- ・ 8月19日午後7時41分、セシウム吸着装置から除染装置へのラインと第二セシウム吸着装置の処理ラインの並列運転による滞留水の処理を開始しました。
- ・ 10月7日午後2時6分、伐採木の自然発火防止や粉塵の飛散防止を目的とした構内散水を、5、6号機滞留水浄化後の水を利用し、開始しました。
- ・ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、10月28日、1～4号機の既設護岸の前面に海側遮水壁の設置に関する工事に着手しました。
- ・ 12月13日午後0時25分、淡水化装置（逆浸透膜式）において、淡水化装置（逆浸透膜式）処理後の濃縮水発生量の抑制を目的とした、再循環運転による運用を開始しました。
- ・ 12月21日午後1時57分、2号機タービン建屋地階から集中廃棄物処理施設（雑固体廃棄物減容処理建屋〔高温焼却炉建屋〕およびプロセス主建屋）への溜まり水の移送を開始しました。
- ・ 12月21日午前1時40分頃、淡水化装置（逆浸透膜式）2-2において、マルチメディアフィルタの逆洗水ドレン弁の閉動作が規定の時間内に行われなかったことを示す警報が発生し、当該ユニットが自動停止しました。なお、現場において水漏れがないことを確認しました。また、淡水化処理した水は十分にあることから、原子炉注水への影響はありません。淡水化装置（逆浸透膜式）3は起動可能な状態です。その後、弁の動作確認等の調査を行った結果、設備に異常がないことから、一過性の現象であると考え、同日午前10時20分頃、当該ユニットを再起動しました。今後、継続して運転状況について監視を行ってまいります。
- ・ 12月22日午前10時、発電所敷地内の線量率を測定するモニタリングポストNo.2およびNo.8の伝送部品の交換作業を開始し、同日午前11時40分、交換作業を終了しました。なお、同作業に伴い、モニタリングポストNo.8については、午前11時10分から午前11時40分の間、データが欠測しておりますが、他のモニタリングポストの値に有意な変化はないことを確認しております。また、モニタリングポストNo.2については、交換箇所が違うため、停止せずに作業することが可能であったことから、データの欠測はありません。

以 上